

二人の解放子ども会員

※ Aさんは、高校の同和教育の授業で被差別部落出身の方の話を聞きました。そして、その感想を書きました。

部落差別についての話を聞くのは初めてではなかった。私は、何回も話を聞いたことがあります。

結婚差別、就職差別、今でも根強くあるのは知っています。私は解放子ども会、つまり部落の人が集まって勉強したり、差別を少しでも減らそうと運動したりと、9年間やってきた人間です。今まで先生に言おうか言わないでおこうか、すごく迷っていました。でも決めました。

先生ネッ、私にはたくさんの仲間がいるの。それがすごく支えになっているんだ。

一時、私も、部落になんか生まれてきたくなかったって両親に言って困らせたことあるけど、今は違うよ。誇りに思えるようになってきた。すごくいい友達に会えたし、いろいろなこと学べてるから。

【高校生 A子】

※ 解放子ども会で学ぶMさんが、現在の自分の思いを作文にしました。

私は、部落に生まれて、人よりも少し思いやりの心を持てたのではないかと思っています。お昼の校内放送で、解放子ども会の連絡放送が入るときにびくびくしているのは、はっきり言っておかしい。解放子ども会に行っていることは、恥ずかしいことなのではないでしょうか？まちがったことなのではないでしょうか？絶対違います。

私たち解放子ども会に学ぶ仲間たちは、一日でも早く自分の出身について安心して語れるような、差別のない温かい学校・社会になって欲しいと考えています。しかし、差別をなくして欲しいでは人ごとになってしまいます。私たちがなくさなければならないのです。そのためには強くならなくてはいけないと思います。自分にとって被差別部落とは何なのか。それが堂々と人に語れるようになるまで、逃げるのではなく、考え続けていきたいと思っています。

【中学生 M子】

